

② 医療と介護 これからどうなる

ますます削られる入院・介護施設

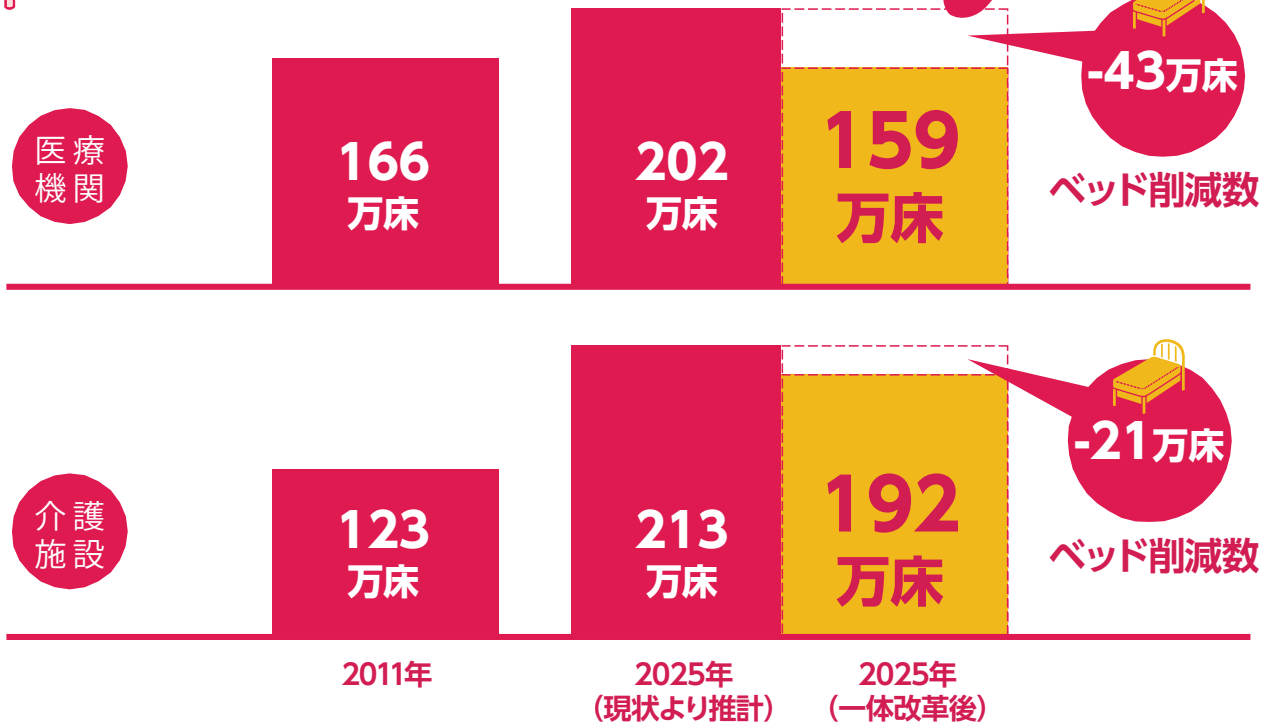
受け入れてくれるベッドがない、すぐに退院を迫られるなど入院医療などをめぐる患者・家族の不安の声は絶えません。国は、団塊の世代が75歳を迎える2025年には、医療・介護でベッド数の大幅増が必

要と見込んでいます。しかし、家族の下で終末期の療養・看取りを進めるとして、ベッド数は大幅に減らし、早期の退院を迫り、患者・利用者を無理にでも退院・退所させようという構えです。



医療・介護サービスの 需要と供給(必要ベッド数)の見込み

※社会保障審議会医療部会2011年12月1日資料より作成



自己責任を強調した政治の下、地域の絆は薄れ、「無縁社会」といわれる事態が進行しています。ワーキングプア・独身高齢世帯、「老老介護」が増加する中、安心して入院・入所できる環境を求める声は高まっています。支える家族・地域が疲弊する中、ベッド数を強引に削減すると、孤独死・孤立死の増加が懸念されます。

「急性期以外の病院はなくなるのが理想…特養はいずれ施設ではなく、家・すまいという位置付けになる」(厚労省幹部)